

WAW！分科会①「多様性を育てるメディアとコンテンツ」

現状・課題

世界では近年、メディアにおいて多様性を推進する動きが活発になっている。メディアで発信される言葉やコンテンツは、無意識な性差別を助長する表現を含んでいないかという観点で確認されるようになり、多様性への配慮が不足していたり、固定的な役割分担を助長しかねない広告に関して規制を導入した国もある。また、2018年のG7シャルルボワ・サミットでは、デジタルの文脈における性的及びジェンダーに基づく暴力、虐待及びハラスメントの撲滅に対する首脳のコミットメントがまとめられた。

昨年のWAW!における「メディアにおけるジェンダー」をテーマとした分科会では、テレビやウェブサイトのCM等においてステレオタイプ的な女性の描かれ方がなされる原因や、固定的な性別役割分担における無意識な偏見を助長することを防ぐための方策が議論された。そこでは、メディア業界における意思決定を含めた全てのレベルにおける女性参加の促進や、全ての人が参加しやすい労働環境を創出するため、メディア業界で蔓延している長時間労働を変える必要性等が指摘された。また、例えば「家事を『手伝う』」という表現を、『分担する』という表現に変えたり、男女共に育児休暇を取得するのが当たり前という姿をメディアが発信したりすることで、メディアが持つ影響力が性別による固定観念を変容させる可能性を有している点にも触れられた。

近年、ドラマや漫画、アニメーションといった比較的若い年齢層を対象としたメディアにおいて、従来の性別による固定的な役割分担にとらわれない登場人物やストーリーが支持を集めつつある。SNSが発達し、発信ツールへのアクセスも多様化するなかで、視聴者の反応がかつてないスピードや規模で伝わる環境が生まれている。その一方で、メディアを通して発信される新しい価値観や役割分担の変化に対し、違和感を持つ人からのバックラッシュや、これまでの価値観が急激に変化していく中で、子どもにどこまで先進的な多様性を教えればいいのか分からない、といった親による戸惑いの声もある。

世の中のニーズやライフスタイルが刻々と変化し、多様化していく中で、メディアを視聴する媒体も多様化が進み、一つの価値観を多くの人と共有していた時代は過去のものとなりつつある。価値観やライフスタイルが多様化するにつれ、共感できない考えや、理解することが難しい価値観にひとりひとりが接する機会も増えていく。少数派の声を拾い上げ、他者の視点に焦点を当て、その考えや行動をとるに至った背景や経緯を視覚化することができるメディアは、人々が異なる価値観や他者の生き方を尊重することを学ぶ重要なツールであると同時に、多様性のある新たな社会の価値観の形成をリードしていく存在となることが求められている。この課題は、SDGs目標5(ジェンダー平等)及び目標10(不平等是正)に密接に関連している。

論点

- メディアによる固定観念の形成を防ぎ、多様性を育てるためのメディアやコンテンツのあり方とは。
- 言葉やコンテンツによって、メディアが人々の固定観念を変えた優良事例はどのようなものがあるか。
- 今の時代において、非難が殺到する状況や、バックラッシュが起こった時の対応のあり方は。
- 無意識な偏見を助長するようなコンテンツに対し、視聴者が気をつけるべき点は。メディア・リテラシー・スキルをどのように身につけていくか。
- 視聴者の意見の多様化や時代の変化を見極め、適切な形で発信に取り込むためにメディアが成すべきことは何か。メディア分野の意思決定について、女性の参画拡大を含め、多様性をどのように確保していくべきか。
- インターネット上の性的及びジェンダーに基づく暴力、搾取、ハラスメントにどう対応していくべきか。